

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0191500024		
法人名	医療法人社団健亮会 光銭医院		
事業所名	グループホーム 杉の木		
所在地	北海道上磯郡木古内町字本町704番地 (電話) 01392-2-3335		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月12日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】 (平成20年 9月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和	平成	18年	10月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	15人	常勤	15人,	非常勤	0人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建て	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	光熱水・日常生活費29,000円 暖房費(10~4月) 7,000円
敷金	有 (円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円・月額 30,000円		

(4) 利用者の概要 (9月 12日現在)

利用者人数	17名	男性	8名	女性	9名
要介護1	1	要介護2		5	
要介護3	6	要介護4		3	
要介護5	2	要支援2		0	
年齢	平均 80.3歳	最低	66歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	光銭医院・木古内町立国保病院・おおた歯科医院・あひこ歯科クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム杉の木は、旧老健施設の2、3階を全面改装して開設した事業所で、3階の渡り廊下で町立病院と、また1階の通路は新老健施設へと棟続きになっており、環境的に恵まれた施設である。運営の母体は医療機関で、医師である運営者は、毎日ホームを訪れ、管理者とともにケアサービスの向上に熱意を持って取り組んでいる。共有空間は広くて明るく開放的であり、地元特産の道南杉の木目を生かした内装は落ち着いた雰囲気を与えている。居室には家族の承諾を得て、徘徊行動を察知するための床マットセンサー、モニター用カメラを設置し、運営者と管理者が自宅にいる場合にも、利用者の行動を把握できるシステムを導入し、家族の安心に繋がっている。職員は第2の家族と考え、時には嫁や孫になり、利用者と喜怒哀楽を共にし、生活している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である理念は、地域密着型サービスを念頭において、地域にあった事業所独自の理念に改善している。学生のボランティアの受け入れや、同業者との相互訪問など改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施方法と留意事項の書類を作成して職員全員で共有し、ホーム会議で検討して実践につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は8回実施しており評価結果も公表している。事業所からの説明が中心で、参加メンバーからの意見や要望がなく、双方向的会議には至っていない点が今後の課題となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情がある場合は、報告書を作成して運営者に報告し、チーム全体で改善に取り組み、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区には町内会活動はないが、新1年生がランドセルを背負った姿で来てくれたり、高校生ボランティア、踊りのボランティアが訪問の際には、近隣住民の参加もあり交流を持っている。町主催の行事には利用者も見学に行くなど地域との連携もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援を事業所の理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすい所に提示している。毎朝の申し送りやホーム会議の中で再確認し日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会組織のない地区であるが、新1年生がランドセルを背に来てくれたり、学生のボランティアや舞踊のボランティアの訪問の時には近隣の住民の参加もあり交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施方法及び留意事項の書面を作成して職員全員に配布し自己評価に取り組んでいる。評価結果をホーム会議の中で話し合い改善に向けて検討し実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は8回実施している。評価結果を公表しているが事業所からの説明が中心で、参加メンバーからの意見、要望がなく双方向的会議に至っていない。	○	事業所の活動や利用者の状況など報告しているが、参加メンバーからの意見や要望がなく苦慮している部分がある。認知症の理解やグループホームについての啓蒙を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の地域ケア会議や町介護保険課などと情報を共有して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしの様子は面会時やメールで報告している。職員の写真をホールに掲示しホーム便りでも紹介している。金銭管理は家族と相談の上本人が管理していたり、事業所が立替えて月末に請求するなど個々に合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に相談、苦情について家族に説明している。意見や苦情がある時は報告書を作成し運営者に報告してチーム全体で改善に取り組み、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全員の職員が全員の利用者と馴染みの関係を中心掛けて支援している事業所であり、利用者のダメージを防ぐ配慮は日常的に実践している。運営者は職員の離職を抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望、要望によりテーマを決めて事業所内研修を実施している。外部研修も勤務体制を変更して職員全員が参加できるように配慮しており、研修後はレポートを提出し、閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会で同業者と交流があり、施設訪問などをして質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者は家族と見学するなど馴染めるまで時間を要するが、医療機関からの利用者は病院の延長のつもりなのであまり混乱はない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は時には嫁の立場、ある時は孫になり会話を楽しんでいる。利用者からは調理の味付けや掃除の仕方を教わるなど共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	奇声を発する利用者には、職員全員で表情や態度を観察して意向をくみ取り支援している。一人ひとりの思いを大切に臨機応変に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を把握し担当者会議、ホーム会議でアイデアを出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6か月ごとで見直しをしているが、利用者の状態の変化が見られるときは、家族と相談のうえ随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望により、宿泊支援、通院支援、美容院、買い物、墓参りなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者は医師であるが、本人、家族の希望でかかりつけ医は自由である。緊急のときは隣の町立病院が渡り廊下をストレッチャーを押して迎えに来てくれるので適切な医療が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りに関する指針を説明し同意を得ている。すでに2名の看取りを経験しており、運営者と職員は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居の時に個人情報使用同意書に家族の確認をとっている。個々の記録はロッカーに施錠して管理している。職員はプライバシーを損ねるような対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調・気分に合わせて、起床・就寝時間に規制はなく自由である。天気の良い日は散歩や買い物など一人ひとりの希望により、臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、別メニューを用意するなど楽しい食事に努めている。職員は一人ひとりの能力に合わせて、食事の準備、後かたづけを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に添って支援している。浴槽はスライド式で両サイドが腰をかけられるようになっていたり、底は滑り止め加工をしている。浴室は体に負担がかからないように工夫してあり入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の時に家族から生活歴を聞き、包丁とぎの得意な人、床ふきの得意な人など一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、買い物などで気分転換やストレス発散をしている。外出をあまり好まない利用者のために、近日中に3階から屋上まで昇降機を設置する予定であり、戸外に出られる支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は鍵をかけていないが、夜間は防犯のためかけている。本人と家族の要望で夜間、居室に施錠する利用者には、モニター用カメラを設置し、運営者と管理者は自宅にしながら確認できるよう整備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震、夜間想定などの訓練は年2回実施している。事業所は町立病院と老健施設の中間にあり棟続きになっているので、町の防災無線や非常用放送火災装置は完備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は一日を通して確保できるよう支援している。栄養バランス、献立は栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くて明るく清潔が保たれており、不快な臭いや音は感じない。利用者と職員は、季節の行事に合わせて小物を作り、壁に飾って季節感を表している		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や生活用品、装飾品を持ち込み自宅と同様の配置をし居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。